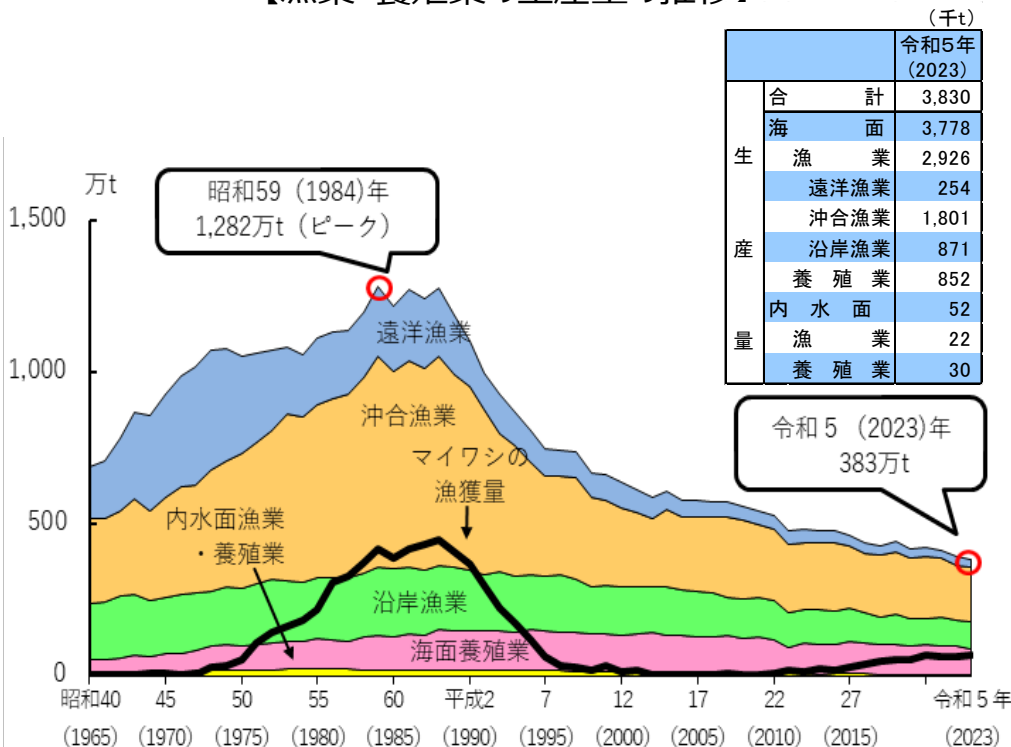

カキ養殖をめぐる情勢について

令和7年4月
水産庁

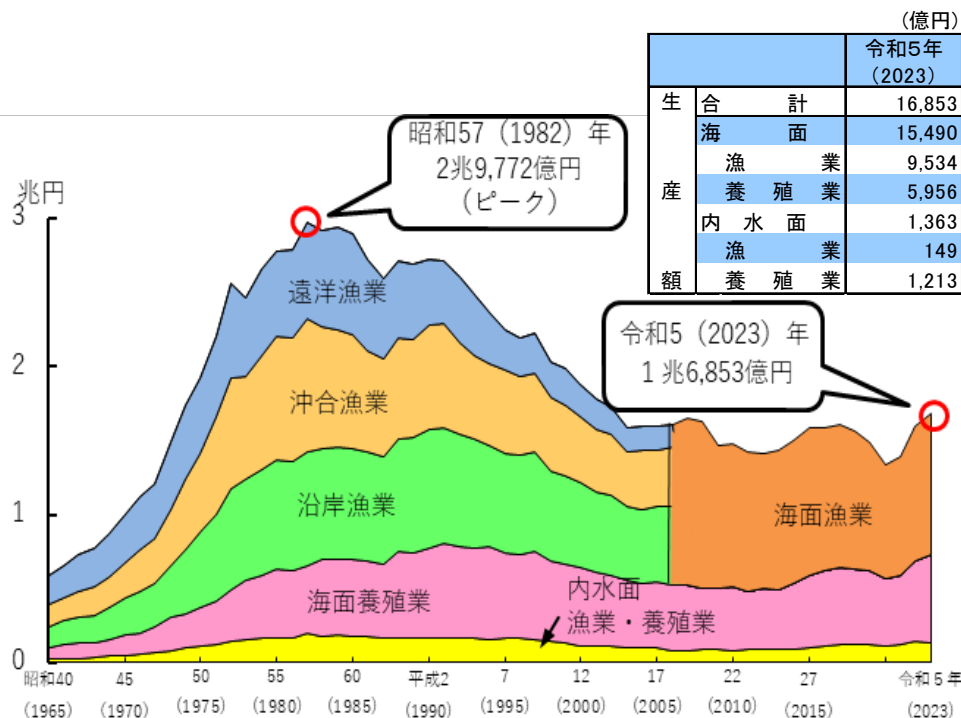
1. 漁業・養殖業の国内生産の動向

- 令和5（2023）年の漁業・養殖業生産量は383万t。うち海面養殖業は85万t（22%）。
- 令和5（2023）年の漁業・養殖業の生産額は1兆6,853億円。うち海面養殖業は5,956億円（35%）。

【漁業・養殖業の生産量の推移】



【漁業・養殖業の生産額の推移】



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

注：漁業・養殖業生産量の内訳である「遠洋漁業」、「沖合漁業」及び「沿岸漁業」は、平成19（2007）年以降漁船のトン数階層別の漁獲量の調査を実施しないこととしたため、平成19（2007）～22（2010）年までの数値は推計値であり、平成23（2011）年以降の調査については「遠洋漁業」、「沖合漁業」及び「沿岸漁業」に属する漁業種類ごとの漁獲量を積み上げたものである。

資料：農林水産省「漁業産出額」に基づき水産庁で作成

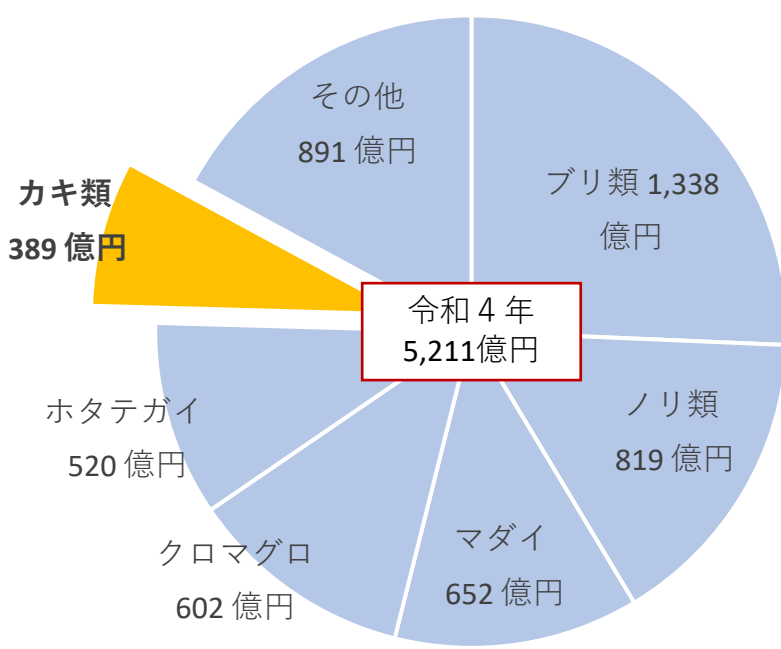
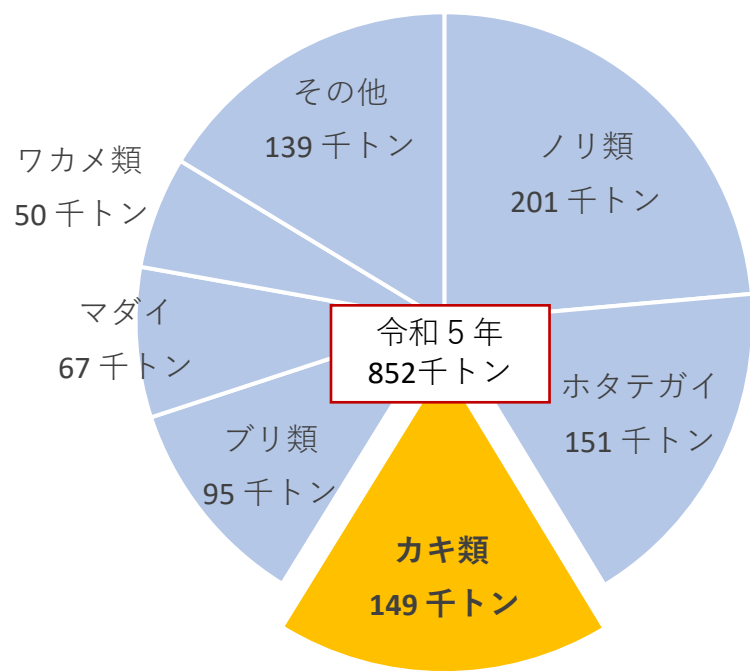
- 注：1）漁業生産額は、漁業産出額（漁業・養殖業の生産量に産地市場卸売価格等を乗じて推計したもの）に種苗の生産額を加算したもの。
2）海面漁業の部門別産出額については、平成19（2007）年から執りまとめを廃止した。

2. 我が国における養殖生産の内訳

- 養殖生産の内訳について、生産量にあつては、海面における海藻類（ノリ類等）及び貝類（カキ類、ホタテガイ等）の割合が多く、産出額にあつては、海面における魚類（ブリ類、マダイ、クロマグロ等）の割合が多い。
- カキは我が国の海面養殖生産量の約5分の1を占める重要な養殖種類である。

【海面養殖業生産量の内訳】

【海面養殖業生産額の内訳】

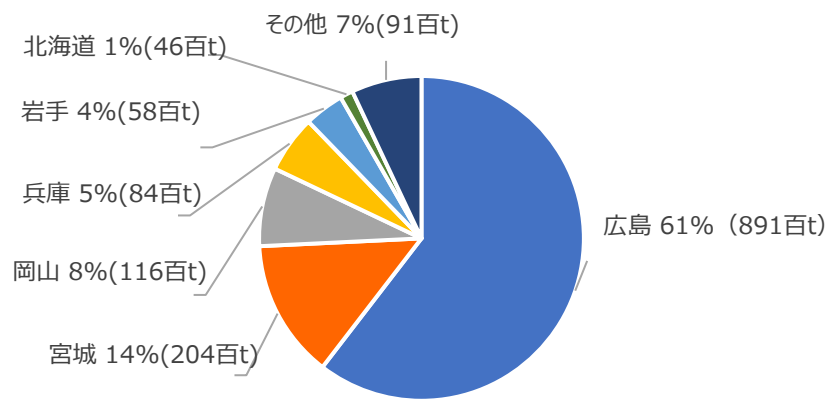


出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」「海面漁業産出額」
※令和5年の魚種別・都道府県別生産額は未公表につき令和4年分を記載。

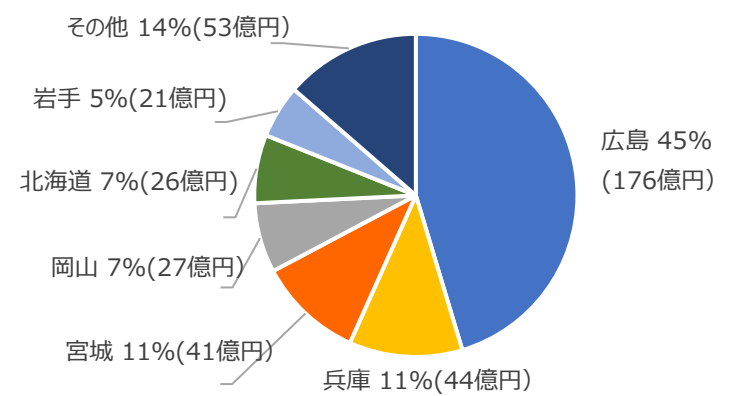
3. 養殖力キの主な生産地

○2023年の生産量は、広島県が61%、宮城県が14%、岡山県が8%の順に多い。
○生産額では、広島県が45%、兵庫県11%、宮城県11%の順に多い。

産地別生産量割合（2023年）



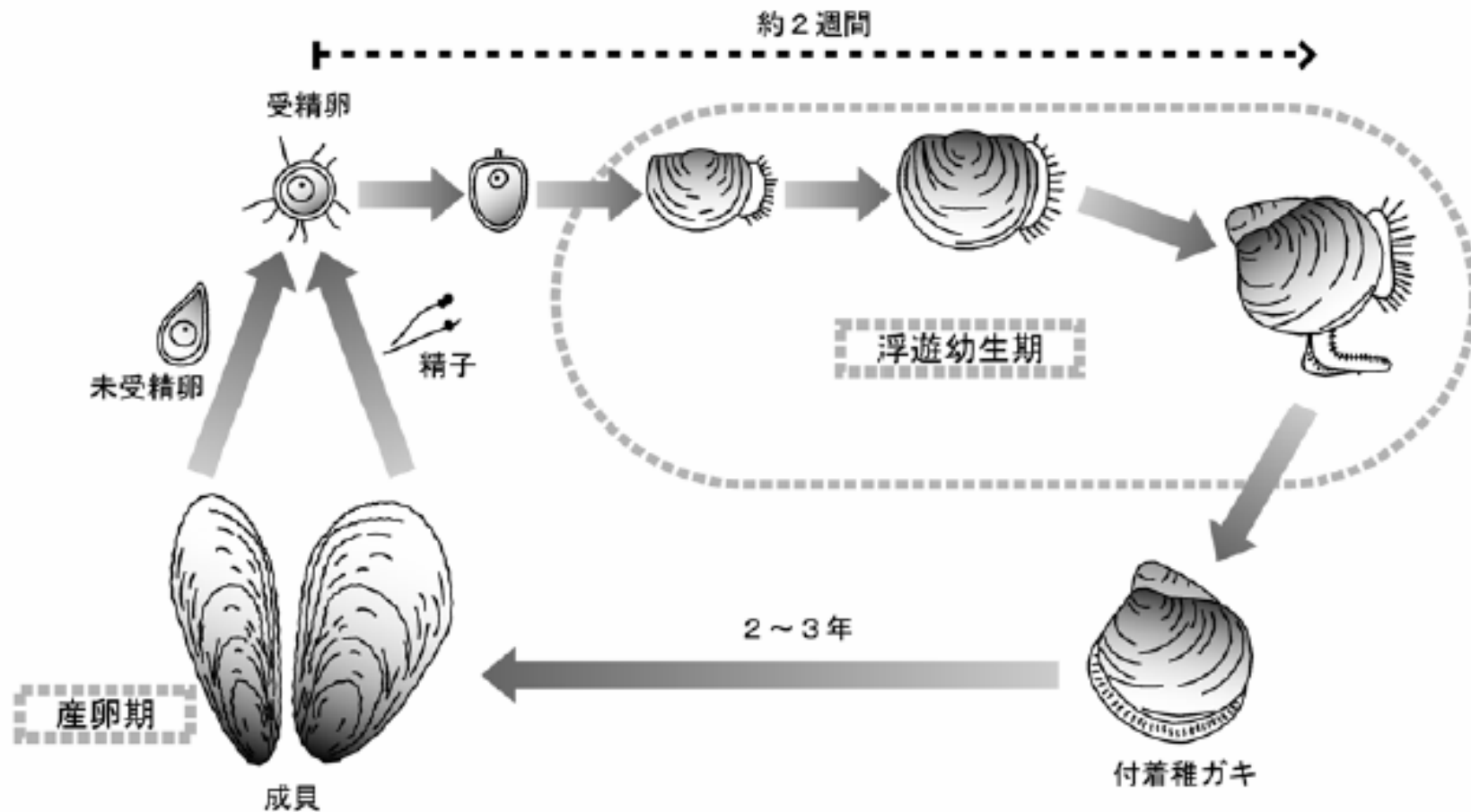
産地別生産額割合（2022年）



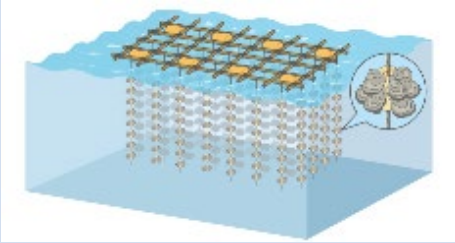
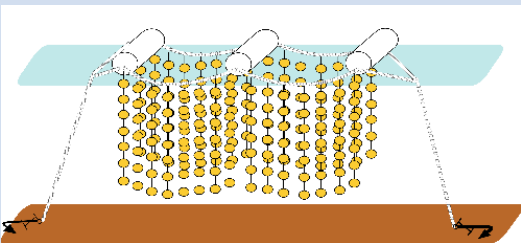
出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」「海面漁業産出額」 ※令和5年の魚種別・都道府県別生産額は未公表につき令和4年分を記載。

4. カキの生活史

- カキは6月から8月にかけて産卵期を迎え、受精卵は約2週間の浮遊幼生期を経て付着。
- その後2年から3年かけて成熟する。
- 成貝の適正水温は15℃から25℃とされている。



5. カキの主な養殖方法

様式	垂下式養殖		バスケット式(シングルシード)
	筏式	延縄式	
模式図			
特徴	・筏の移動が可能 ・立体的な海面利用 ・耐久性、波浪に弱い	・外洋に面した海域に設置可能 ・立体的な海面利用 ・波浪に強い	・カキの形状が比較的均一 ・浅海域での生産が可能 ・平面的な海面利用のため生産量が制限
地域	広島、宮城、岡山、兵庫など全国	宮城、岩手などのうち風浪の激しい一部の地域	徳島、大分などのうち一部の地域

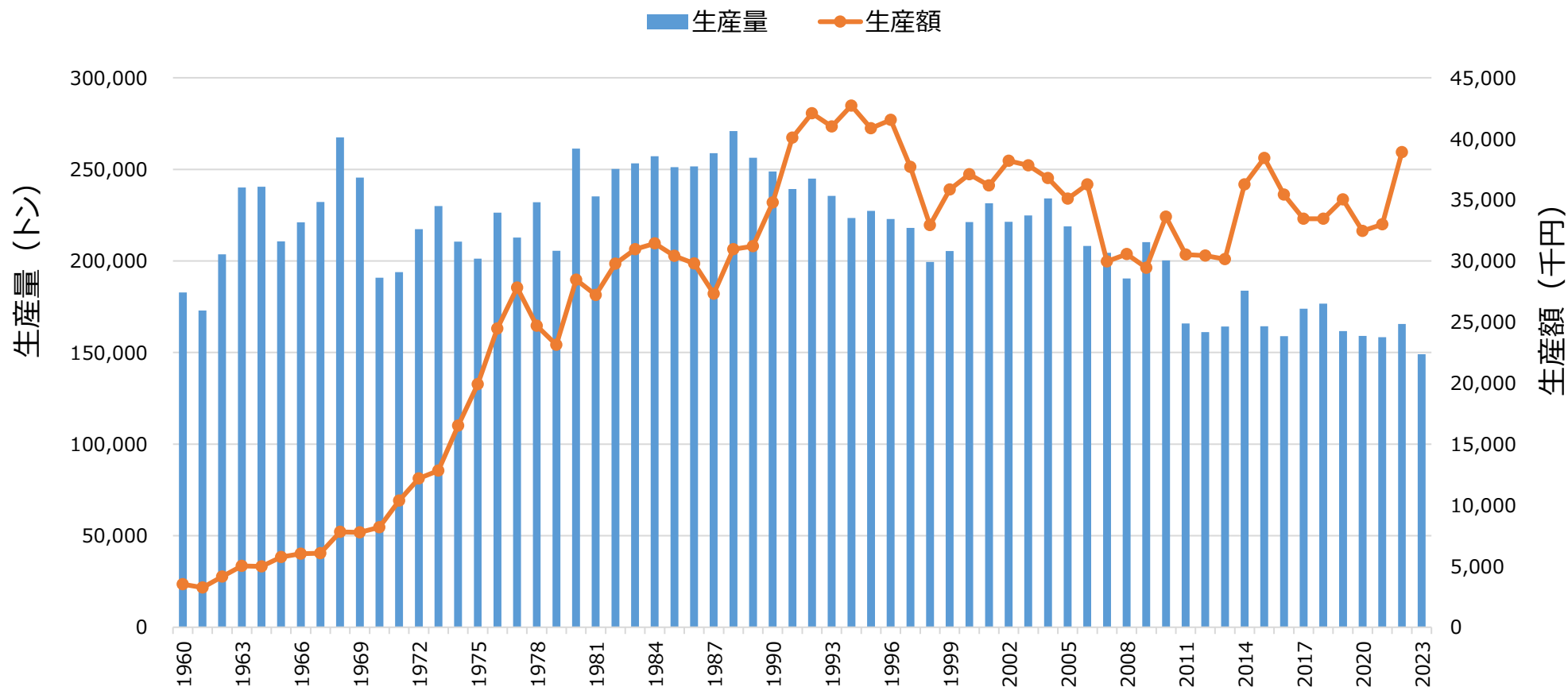
カキの生産から販売までのサイクル（垂下式養殖の例）

	1年目										2年目				3年目							4年目			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	～	3月	4月	～	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	～
垂下式養殖	天然の種苗を採取					抑制 (中間育成、出荷期間調整)						養殖期間							出荷						

6. カキの国内生産量・生産額

○生産量は、1988年の27万トン进行ピークに減少傾向にあり、直近では15万から17万トン程度で推移している。

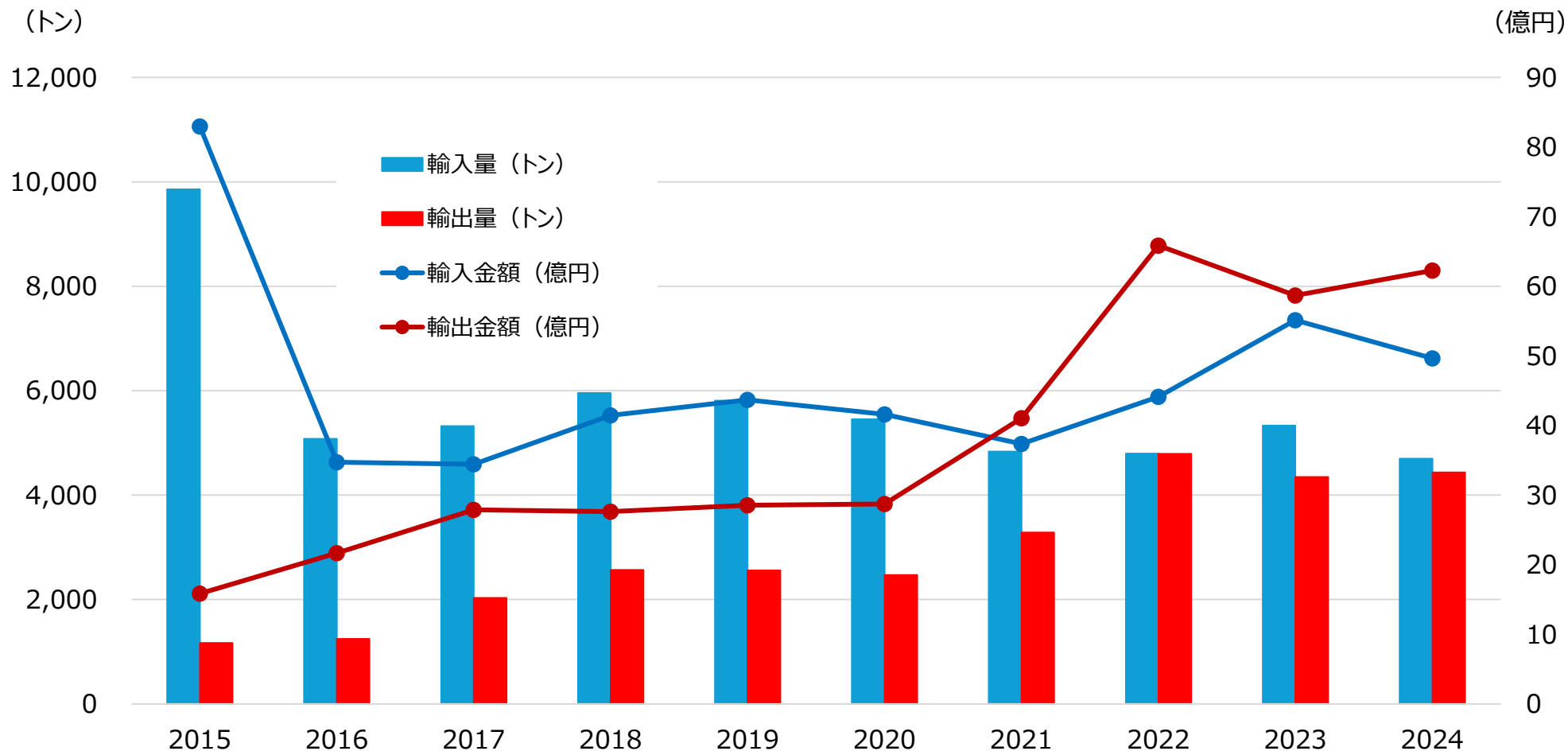
○産出額は、1995年の427億円をピークとし、直近では320億円から380億円程度で推移している。



7. カキの貿易量及び貿易額

○輸出については、台湾、香港、シンガポール等のアジア向けの冷凍カキや、米国等向けの調製品の輸出が伸長。

○輸入については、韓国からの冷凍カキが大半で、2024年のカキ全体の輸入の約81%を占めている。



8. カキの国内生産量、消費量の状況

- 近年のカキの国内消費量は17万トン前後で推移。
- 近年は国内消費量が生産量を上回っており、輸入により国内需要を補っている。

(トン)

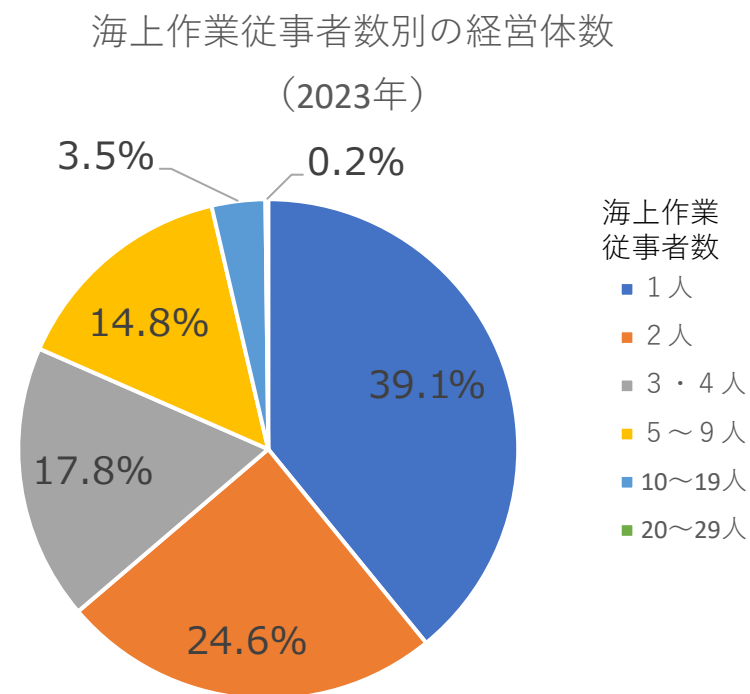
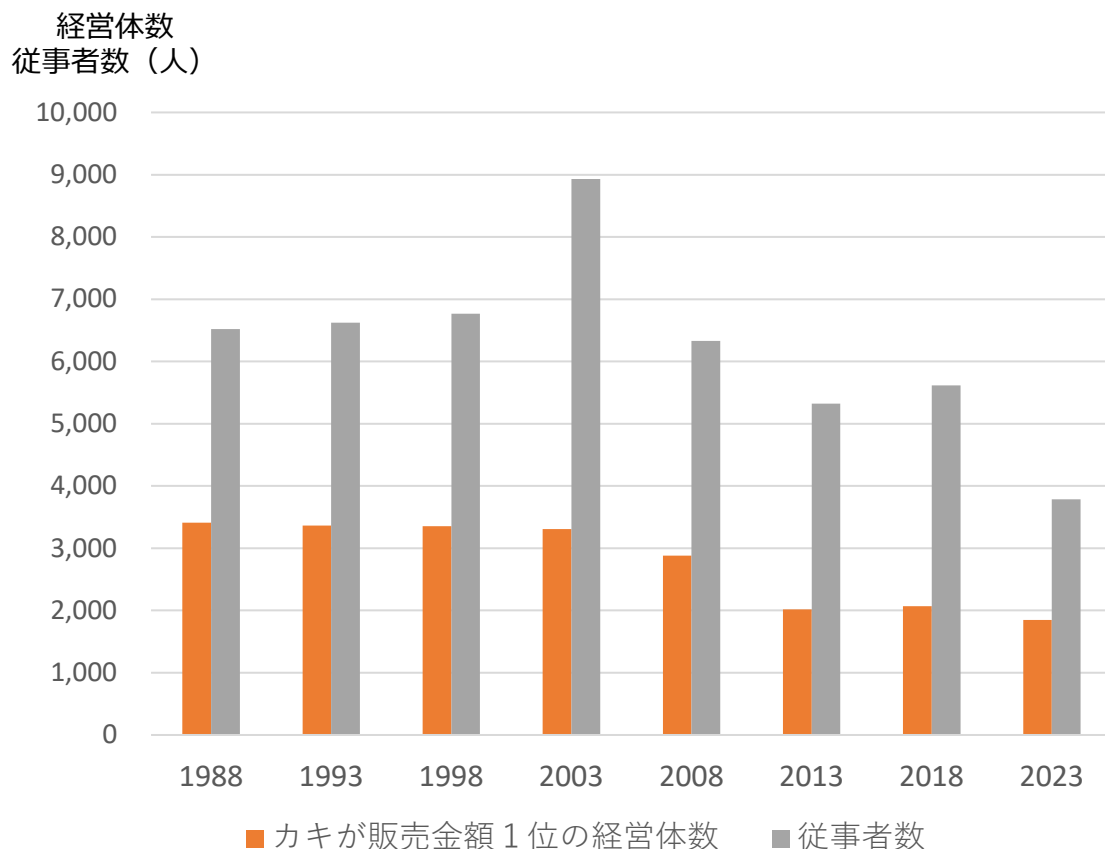
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
生産量 (A)	161,646	159,019	158,400	165,590	149,064
輸入量 (B)	22,905	21,292	19,529	19,816	24,089
供給量 (C : A+B)	184,551	180,311	177,929	185,406	173,153
輸出量 (D)	9,998	9,465	13,282	19,800	17,988
消費量 (E : C-D)	174,554	170,846	164,648	165,606	155,165

注：輸入量及び輸出量は原貝換算（5倍）したもの（推計値）

9. カキの養殖経営体数、従事者数

○国内のカキ養殖経営体数、従事者数は減少傾向にある。

○海上作業従事者数別の経営体数では、1人の経営体が39%と最も多く、4人以下の経営体が全体の8割以上を占めた。



10. カキの養殖経営体の収入・支出、所得の状況

○カキ養殖における経営体の収支は、各年で変動はあるものの継続して黒字。

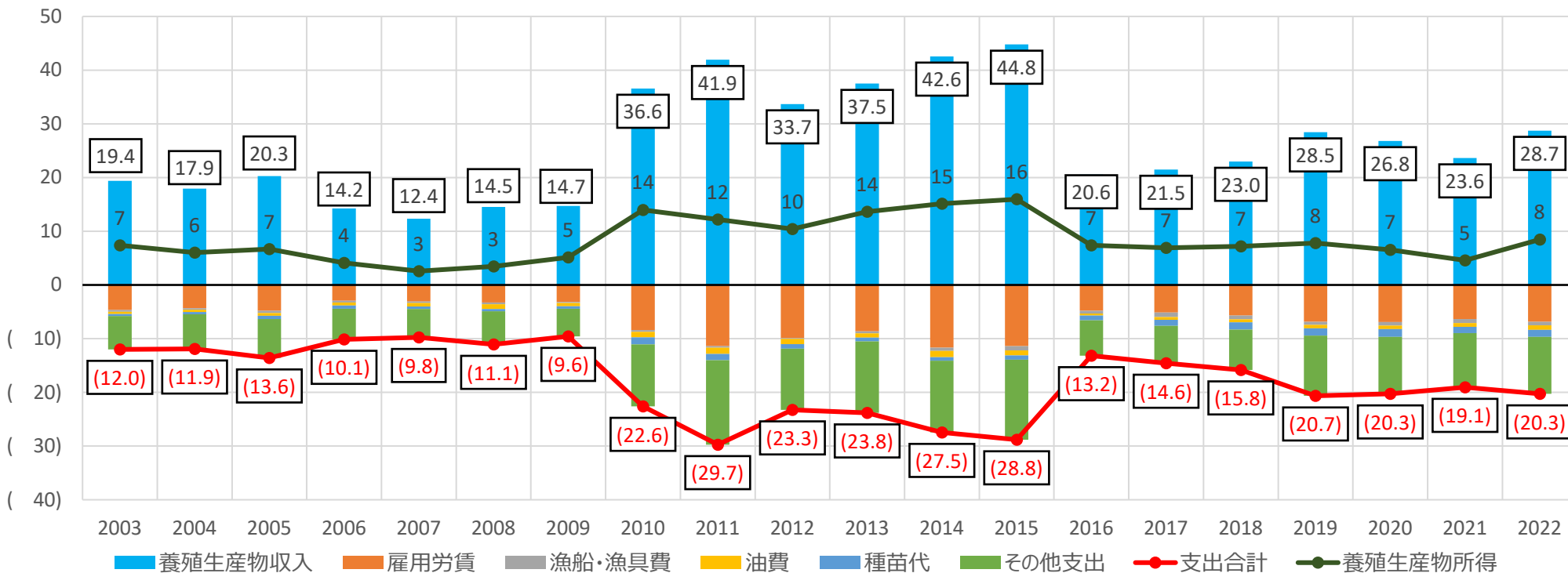
経営体の規模拡大は進行しているが、大幅な所得の増加には至っていない。

○労働集約的な性格が強く、スケールメリットが出にくいことが影響していると考えられる。

※2010年から2015年までは、東日本大震災の影響により岩手県及び宮城県を除外して集計

(農林水産省漁業経営調査報告)

(百万円)



出典：農林水産省漁業経営調査報告（個人経営体調査）

1 1 . 課題と取組

高水温等によるへい死

○近年の海水温の上昇、付着物の増加等により、生育不良、へい死が発生している。

○高水温対策

- ・垂下するロープを延長し、表層の高水温を回避（深吊り対策）等

○衰弱対策

- ・高水温環境下で放卵・放精が継続することによる衰弱の軽減対策等として、三倍体カキの種苗生産・養殖への活用

○付着物対策

- ・温湯処理、淡水浴、干出処理により付着物を除去し、生育向上を図ることによるへい死のリスクの軽減



カキ三倍体種苗
(広島県栽培漁業センター)



延縄養殖の様子
(宮城県HP)

魚類による食害（捕食）

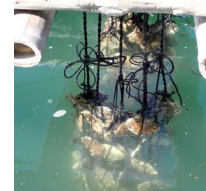
○ナルトビエイ、クロダイ、フグ等の魚類による、養殖カキへの食害が発生している。

○予防対策

- ・魚類による食害対策ネットの設置
- ・垂下するカキを密集させ、内側の種苗の食害からの保護

○情報提供・駆除対策

- ・ナルトビエイの出現状況や生態の調査及び漁業者等に対する情報提供等



密集による保護
(岡山県HP)

クロダイを活用した水産振興

従来より地域で食されていたクロダイについて、漁業関係団体及び県が連携した消費拡大の取組

クロダイを使用した商品の販売

R6年4月10日発売



岡山海苔弁「黒」
・岡山産のり
・県産クロダイ
・作州黒（黒豆）

R6年6月12日発売



イオン・マックスバリュで販売
「もったいない魚シリーズ」の第3弾
岡山県産（宮島町）のクロダイを使用した
ステーキ（ねぎ塩味／柚子味噌味）

クロダイの
消費拡大の取組
(岡山県事業)

カキ殻の処理

○むき身加工において大量のカキ殻が発生し、その処理、再利用が課題となっている。

○沿岸域の生物生産性向上

- ・カキ殻を活用した増殖礁の設置による生物生産性向上を図る取組

○底質環境の改善のための活用

- ・カキ殻を活用し底質の悪化した漁場に散布・敷設することにより底質環境の改善を図る取組

○飼料肥料への活用

- ・養鶏用飼料、農業用肥料への活用

※農林水産省関係の取組について記載



カキ殻を再利用した人工魚礁
(広島県・水産庁事業)
(写真は海洋建設株式会社提供)



肥料・飼料向けに
粉碎されたカキ殻
(広島県HP)